

再 評 価 書

事業名	一般国道422号八知山 ^{やちやま} 拡幅		事業区分	道路事業	室名	道路整備室
事業概要	工期	H7年~H22年	全体事業費	2,010百万円(負担率:国5.0:県5.0:他0)		
	(下段:当初)	H7年~H11年		(下段:当初)	746百万円(負担率:国5.0:県5.0:他0)	
事業目的及び内容						
<p>一般国道422号は、滋賀県大津市を起点とし、三重県内を南北に縦断し北牟婁郡紀北町に至る延長約121kmの幹線道路です。</p> <p>宮川村は急峻な山間の谷部を流れる宮川に沿って集落が点在しており、それを繋ぐように宮川左岸側を国道422号・県道大台宮川線が、右岸側を村道が走っています。</p> <p>そのようななか、国道422号は村西部地区の集落と村役場等の位置する中心部を結ぶ幹線道路として、また県道大台宮川線と接続し主要幹線である国道42号へ至ることで生活圈・商圈である松阪地域とを結ぶ幹線道路として生活に欠かすことのできない役割を担っています。</p> <p>加えて林業を主体とする地域産業を支援するとともに、自然豊かな大杉谷の林間キャンプ村や溪谷への登山などへ向かうルートとして宮川村の観光を支えています。</p> <p>しかしながら、当事業区間は幅員が狭く、特に区間内に位置する八知山^{やちやま}トンネルは幅員3.3mと普通自動車の対向も困難な状況になっていたことから、これを拡幅整備するため平成7年度から当該事業に着手しました。</p> <p>しかし、平成8年2月に発生した北海道の豊浜^{とよはま}トンネルの崩落事故を受け、平成9年3月に八知山^{やちやま}トンネルの点検を行ったところ、崩壊の危険性があることが判明し、平成10年2月から通行止めとしました。このため国道422号の幹線道路機能を回復するため八知山^{やちやま}トンネル後方を迂回する新たなトンネルを計画しました。</p> <p>八知山^{やちやま}トンネルの通行止めにより、当該区間より上流部の大杉地区へ向かう交通は、下流側の落滝橋^{おちたきばし}から一旦右岸側の村道へ迂回し、続いて村道終点部で滝水橋^{たきみずばし}を渡り、再び左岸側の当該区間の途中へ接続するルートの通行を強いられています。</p> <p>そこで、当バイパスを整備し、通行止めトンネルを復旧することで国道422号の道路機能を回復させます。加えて、幅員を拡幅することで生活道路としての円滑な交通を確保します。</p> <p>事業計画期間16年、全体事業費2,010百万円で計画しています。</p> <p>事業概要 道路工 850m(うちトンネル工321m、橋梁工20m)</p>						
事業主体の再評価結果						
<p>1 再評価を行った理由</p> <p>事業採択後一定期間(10年)を経過した時点で継続中の事業であるため三重県公共事業再評価実施要綱第2条に基づき再評価を行いました。</p>						
<p>2 事業の進捗状況と今後の見込み</p> <p>平成7年度に事業着手し、平成7年から用地買収、平成8年度より工事着手しています。</p> <p>これまでに、36%(用地97%工事34%)の進捗が図られています。</p> <p>八知山^{やちやま}トンネル起点側抗口付近に未買収地があり、平成14年より交渉を開始していますが難航しています。引き続き交渉を進めますが、平成19年度までに法的手続きを行えるよう、現在準備中です。</p> <p>平成19年度に未買収地の解決を図り、20年度より橋梁工、21年度からトンネル工に着手し、平成22年度末の全線供用に向けて事業を進めて行く予定です。</p>						

3 事業を巡る社会経済状況等の変化

平成16年度豪雨災害

当該区間で右岸側の村道が終点となることから、当該区間においては国道422号が宮川村中心部と大杉地区を結ぶ唯一の道路となっていますが、平成16年9月に来襲した台風21号の大豪雨により宮川が増水し、川沿いに位置する当該区間上流部が崩壊し流出しました。

これにより、当該区間より上流に位置する大杉地区集落は8日間にわたり孤立し、その間空輸により生活物資を輸送するなど、生活に多大な支障を来しました。また、大杉地区でも多くの災害が発生しましたが、当該区間が通行不能となったことから復旧支援へ多大な影響を与えました。

このため地域住民からは唯一のライフラインである当該区間の一刻も早い改良・整備への切実な要望があがっています。

町村合併

宮川村では平成18年1月に隣接する大台町との合併を控えており、合併による行政サービスの向上や、効率化を支援するうえでも、当事業の早期完成が望まれています。

近畿自動車道紀勢線

平成17年度末には近畿自動車道紀勢線の勢和多気ジャンクション～大宮・大台インターチェンジ（仮称）までが開通することから、自然豊かな宮川村への観光客の増加が見込まれます。

4 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化、地元の意向の変化等

4-1 費用便益比

当該事業区間では、八知山^{やちやま}トンネルの通行止めにより国道422号は通行不能となっており、新たなトンネル工事は国道422号の機能回復工事にあたることから費用便益比の対象から除外しています。

なお、トンネル部を除いた現道の拡幅にかかる費用便益比を算定すると、

走行時間短縮便益 11.9億円

走行経費減少便益 0.1億円

交通事故減少便益 0億円

総便益費 12億円

総費用 8.8億円

費用便益比は、「1.4」となります。

4-2 地元の意向

当該道路は、三重南北縦貫道路建設促進期成同盟会が結成されており、当該事業の早期完成を強く要望されています。（昭和48年設立）

5 コスト縮減の可能性や代替案立案の可能性

5-1 コスト縮減

残る工事はトンネル部と橋梁部ですが、トンネル工事で発生する残土については、他工事との調整を行い、有効活用を図りコスト縮減に努めます。

5-2 代替案

国道422号は急峻な山間の谷あいを通る宮川の左岸側を走る道路で、右岸側を走る村道と主・副の対となって宮川村の生活を支えています。当事業は、現在通行止めとなっている八知山^{やちやま}トンネルの山側の安定した岩盤に新たにトンネル通すとともに、残る現道区間を拡幅整備することで、重要な幹線道路である国道422号の道路機能を回復させ、円滑な交通の確保を行うものです。

このような道路状況、現在の工事及び用地の進捗状況から、現計画が妥当と考えており、代替案は無いと判断しております。

事業主体の対応方針

三重県公共事業再評価実施要綱第3条の視点を踏まえて再評価を行った結果、同要綱第5条第1項に該当すると判断されるため当事業を継続したいと考えています。